

新たな国民病 「慢性腎臓病(CKD)」

庄原赤十字病院 腎臓内科

戸谷 誠二



人工透析・要介護状態になりやすい病気

「慢性腎臓病(CKD)」とは、腎臓病、腎機能の低下が続く状態のことを言います。その原因の多くは糖尿病、高血圧、肥満です。腎臓が駄目になって人工透析が必要になるだけではなく、健康な人に比べて4〜5倍、要介護状態になる原因の代表的な病気である「認知症」「脳梗塞」「心筋梗塞」になりやすいことがわかっています。

人工透析は家族全体の生活の質の低下を招く病気

患者数は、現在国内で約1千300万人と推計され、「新たな国民病」と言われています。CKDの患者は透析予備群でもありますが、要介護予備群とも言えます。

また、厚生労働省は「人工透析の1人当たりの医療費は年間500万円にもなることに加え、時間的拘束や身体的・社会的制限が発生することにより、患者およびその家族の生活の質



の低下をもたらすことになる」と発表しています。

CKDを予防する取り組み

このためアベノミクス「3本の矢」のうちの3本目「日本再興戦略」では、「予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり」の一つとして「糖尿病性腎症患者の人工透析導入を予防する予防事業」を挙げています。国を挙げて腎臓病対策が行われる中で、当院では毎週木曜日に腎臓内科外来を行っています。庄原市も「市民全体の血圧を5%下げること」を目標に平成23年度から「庄原塩少々プロジェクト」を進めています。

これらの取り組みの効果だけではなく、後期高齢者医療制度加入者のうち人工透析患者さんは、平成23年度末に

定期的な検査を

は98人でしたが、平成25年度末には83人と約15%減り、年間約7千500万円の医療費が減少しました。国内の腎臓内科医は5千人弱のため、腎臓内科医だけで1千300万人のCKD患者の診療を行うことは不可能な状態ですが、当院では「備北地域CKD連携パス(腎臓病手帳)」などを使って、かかりつけ医の先生と連携した診療を行っています。

CKDを予防し、悪化させないためには、①糖尿病・高血圧などの生活習慣病の予防・治療、②肥満にならないこと、③禁煙が重要です。血液検査だけではなく、定期的に尿検査も受けましょう。異常が続く場合には腎臓内科外来を受診してください。受診の際には、経過が不明だと診断が正確に行

えないことがありますので、必ず紹介状をお願いします。「慢性腎臓病」を予防して、透析だけではなく要介護状態にならないようにしましょう。